

令和元年6月24日現在

機関番号：23101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05064

研究課題名(和文)医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の開発

研究課題名(英文) Development of a continuing education support system in nursing for patient safety.

研究代表者

舟島 なをみ (FUNASHIMA, Naomi)

新潟県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：00229098

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長各々が講じている医療事故防止対策を質的帰納的に解明し、これを基盤に医療事故防止能力を自己診断するための信頼性と妥当性を確保した尺度4種類を開発した。また、この4種類の尺度に先行研究の成果である病棟看護師用の医療事故防止能力自己診断尺度を加え、各医療機関の実情に適合する医療事故防止能力向上を目的とした教育プログラムを立案できるように「看護職包括型患者安全教育推進システム」に統合した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、医療事故防止のための助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長の実践知の解明と解明した実践知に基づく信頼性と妥当性を確保した尺度を開発できたことである。また、社会的意義は次の2点に集約される。院内教育担当者が開発した尺度を用い、各看護職者の果たす役割に適合した医療事故防止に向けた教育プログラムを根拠に基づき立案できる。このような教育プログラム立案支援につながるシステムの開発は、看護職者の医療事故防止能力向上に貢献し、医療事故の低減につながる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a continuing education support system in nursing for patient safety. There were three stages to achieve the purpose: (a) Clarifying measures that midwives, clinical instructors for nursing student, preceptors for new graduate nurse and nurse managers use to improve patient safety by qualitative and inductive method. (b) Developing four self-evaluation scales on practices for patient safety by the based on qualitative and inductive research findings. (c) Developing the continuing education support system in nursing through integrating these research findings. This system will support to plan the educational programs evidence-based for patient safety.

研究分野：看護教育学

キーワード：看護学 医療事故防止 院内教育 尺度開発 助産師 実習指導者 新人看護師指導者 看護師長

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

医療事故防止に向け組織的な対策(伊藤他,2014)は行われているが、平成25年、過去最多、2,982件の医療事故が報告された。また、事故当事者の約5割は看護職者であり、医療事故の約4割が「観察・確認不十分」「患者への説明不十分」など日常の看護実践に起因している(日本医療機能評価機構,2013)。これらは、組織的な対策に加え、看護職者個々による日常的な看護実践の安全性を向上できない限り、医療事故の発生を防止、低減できないことを示す。

このような観点から開発した「患者安全のための看護実践自己評価尺度 病棟看護師用」(三浦・舟島,2010)は、看護師個々が日々、講じている効果的な医療事故防止対策を質的帰納的に解明した成果に基づいており、現実適合性が高く、医療事故防止能力の診断と能力向上に向けた課題解明に有用である。院内教育担当者は、この結果を反映し、自施設の状況に応じた事故防止を目的とした研修を企画できる。この尺度は、既に多くの医療機関から使用許諾申請を受けており、医療事故防止を目的とした院内教育のプログラム立案に貢献している。これらは、看護実践の安全性向上に向け看護職者個々による医療事故防止能力の診断と診断結果に応じた学習、院内教育担当者による能力診断の機会とその結果に応じた学習機会の提供が有効であることを示す。一方、病院には、通常の看護実践に携わる看護師に加え、助産師、新人看護師指導者(プリセプター)、実習指導者、看護師長など異なる役割を果たす看護職者が活動している。このうち助産師は、分娩進行に伴う予測不可能な医療事故に遭遇する可能性が高い(日本看護協会助産師職能委員会,2006)。また、新人看護師(日本医療機能評価機構,2013)や看護学実習中の学生(佐々木他,2007)が引き起こすインシデントやアクシデントの割合は高く、新人看護師指導者・実習指導者は、新人・学生の医療事故防止に向け多大な役割を果たす。さらに、看護師長は、医療事故防止の推進や事故への適切な対応を求められるとともに、医療安全に対する看護師長の態度はスタッフ個々の安全行動に影響を及ぼす(相撲他,2013)。これらは、異なる役割を果たす看護職者が役割に応じた医療事故防止能力を獲得し、その能力を発揮しつつ医療事故防止に向けて看護実践、教育、管理を展開しない限り、患者の安全は保証できないことを示唆する。また、通常の看護実践に携わる看護師のみならず、助産、教育、管理の役割を果たす看護職者個々もその役割に応じた医療事故防止能力の診断に活用できる尺度が不可欠であることを示す。

国内外の文献を検討した結果、医療事故防止に向け助産師(Martijin,L.et al.,2012)と看護師長(児玉他,2004)が活用できる尺度の存在を確認できた。しかし、これらは、日本の現状への適合度と適用の範囲に限界を持つ。また、2006年の医療法改正と診療報酬改定を契機に、多くの病院が職員に医療安全教育を提供している。しかし、その内容や方法は各病院に任せられ断片的であり(布施,2012)、教育担当者は系統的・包括的な教育を模索している。これらは、看護職者個々がその役割に応じた医療事故防止能力を自己診断し、診断結果を反映した医療事故防止能力向上に向けた院内教育を系統的、包括的に提供できるシステムの必要性を示す。研究代表者は、これまで教育・学習ニードの診断結果に基づく看護継続教育支援システムを開発し(舟島,2003~2014)、このシステムは、既に約500病院の教育に活用され、その効果も多数報告されている(宮首,2012)。本研究は、これに続く医療事故防止に焦点を当てた教育推進システムの構築であり、前システムと同様に、医療事故防止能力診断に活用できる尺度開発、診断結果を反映した教育プログラム立案モデル作成、有効性検証を通してシステムの実用化を目指す。

2. 研究の目的

本研究は、看護職者個々の医療事故防止能力向上を実現する院内教育推進システムの開発を目的とする。このシステムは、看護職者が助産、教育、管理など役割、役職に応じた医療事故防止能力獲得に向けた教育を推進できるという特徴を持つ。本研究は、助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長が医療事故防止能力診断に活用できる尺度4種類を開発する。この尺度を用いて、異なる役割を果たす看護職者の医療事故防止に向けた課題を解明し、その結果に基づき医療事故防止能力向上を目的とした教育プログラム立案モデル作成と有効性検証を行い、「看護職包括型患者安全教育推進システム」として統合する。

3. 研究の方法

研究目的に沿って、次に示す3段階により、「看護職包括型患者安全教育推進システム」を構築した。

(1)助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長が講じている医療事故防止対策の解明

助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長を対象に、各々の講じている医療事故防止対策を問う自由回答式質問から構成される質問紙を用いて、全国調査を実施し、データを収集した。自由回答式質問への回答を看護教育学における内容分析を用いて質的帰納的に分析し、助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長各々が講じている医療事故防止対策を解明した。また、解明した医療事故防止対策の信頼性は、2名の研究者によるカテゴリ分類への一致率をScott,W.A.の式を用いて算出し確認した。

(2)医療事故防止能力自己診断尺度「助産師用」「新人看護師指導者用」「実習指導者用」「看護師長用」の開発

(1)により解明した各対象の医療事故防止対策に基づき質問項目を作成し、専門学会議、パイ

ロットスタディを経て、医療事故防止能力自己診断尺度「助産師用」「新人看護師指導者用」「実習指導者用」「看護師長用」の計4種類を構成した。また、構成した尺度を用いて、全国調査を実施した。全国調査により回収したデータを用い、尺度のクロンバック信頼性係数の算出により内的整合性、既知グループ技法により構成概念妥当性、再テスト法により安定性を確認し、信頼性と妥当性を確保した尺度を完成させた。

(3) 医療事故防止能力向上を目的とした教育プログラム立案モデル作成と有効性検証

尺度を用いた全国調査の結果を分析し、異なる役割を果たす看護職者の実践の現状と課題を解明するとともに、各尺度を用いた教育プログラム立案の有効性を院内教育担当者へインタビュー調査した。

4. 研究成果

(1) 助産師、新人看護師指導者、実習指導者、看護師長が講じている医療事故防止対策の解明

助産師が講じている医療事故防止対策の解明：全国の病院・診療所・助産所に就業する助産師1,185名に質問紙を配布し、有効回答501部を回収できた。501名の自由回答式質問への記述を分析し、助産師が講じている医療事故防止対策45カテゴリを質的帰納的に解明した。助産師が講じている医療事故防止対策は、「自己判断に固執することなく判断困難な事態への直面を適任者に報告し相談する」「安全確保に向けた病棟内ルールを遵守するとともに必要なルールを患者・家族にも説明する」「安全のために看護の原則を遵守し援助を進める」「正確な観察に向け、医療機器を使用するとともに医療機器を過信せず五感を用いて観察する」などであった。また、Scott, W.A.の式に基づくカテゴリ分類の一致率は、71%以上であり、解明された45カテゴリが信頼性を確保していることを確認できた。

新人看護師による医療事故防止に向けた新人看護師指導者の対策の解明：全国の病院に就業し新人看護師指導役割を担う看護師719名に質問紙を配布し、有効回答349部を回収できた。349名の自由回答式質問への記述を分析し、新人看護師による医療事故防止に向けた新人看護師指導者の対策41カテゴリを質的帰納的に解明した。新人看護師による医療事故防止に向けた新人看護師指導者の対策は、「新人看護師による看護の安全かつ確実な実施を確認できるまで新人看護師の看護実践の観察・参加を継続し、必要な支援を提供する」「看護実践に先立ち、その難易に関わらず、患者個別の援助に必要な知識・技術の修得状況を点検すると共に、説明・演示を通して新人看護師の援助に向けた準備を支援する」「新人看護師に看護の原則に加え事故防止のための基本原則と禁止事項を説明し、その実行を求めると共にこれらに違反する新人看護師に警告を発する」「新人看護師が患者の状態を理解し安全かつ確実な看護を実施するために必要な知識・技術・態度を説明する」などであった。また、Scott, W.A.の式に基づくカテゴリ分類の一致率は、79%以上であり、解明された41カテゴリが信頼性を確保していることを確認できた。

看護学実習における学生の医療事故防止に向けた実習指導者の対策の解明：全国の病院に就業し看護学実習指導を担当する看護師1,309名に質問紙を配布し、有効回答665部を回収できた。665名の自由回答式質問への記述を分析し、学生の医療事故防止に向けた実習指導者の対策29カテゴリを質的帰納的に解明した。学生の医療事故防止に向けた実習指導者の対策は、「学生に援助に伴う事故回避に向け、遵守すべきルールを伝えるとともに自らも実習指導上のルールを遵守する」「援助の難易度と危険性、学生個々の実践能力を査定し、査定結果に応じて学生の援助に関与する」「学生に援助に伴う事故事例を紹介しつつ、事故防止対策とその重要性を解説する」「学生に報告・連絡・相談の必要性を説明するとともに必要な報告を求める」などであった。また、Scott, W.A.の式に基づくカテゴリ分類の一致率は、73%以上であり、解明された29カテゴリが信頼性を確保していることを確認できた。

看護師長が講じている医療事故防止対策の解明：全国の病院に就業する看護師長1,191名に質問紙を配布し、有効回答529部を回収できた。529名の自由回答式質問への記述を分析し、看護師長が講じている医療事故防止対策43カテゴリを質的帰納的に解明した。看護師長が講じている医療事故防止対策は、「病棟内看視を継続し、医療事故回避に向けた環境整備状況と緊急事態対応への準備状況の適否を点検する」「医療事故防止に向けた活動を看護師長の日常業務に組み込み展開するとともに、医療事故防止に特化した活動の機会を作り、スタッフの参加を求める」「自身の勤務状況に影響を受けることなく、適切な手段と人脈を活用し、必要情報の収集と提供を実現する」「事故発生への注意喚起に向け、院内外で発生した医療事故をスタッフに報告し、その回避に必要な留意事項を繰り返し伝える」などであった。また、Scott, W.A.の式に基づくカテゴリ分類の一致率は、74%以上であり、解明された43カテゴリが信頼性を確保していることを確認できた。

(2) 医療事故防止能力自己診断尺度の開発

助産師用尺度の開発：(1)の成果である助産師が講じている医療事故防止対策45種類を検討し、医療事故防止対策として重要な行動を基盤に29質問項目からなる5段階リカード型尺度を作成し、専門家会議、パイロットスタディにより内容的妥当性を確保した。また、全国の助産師569名のデータを統計学的に分析した結果、尺度のクロンバック信頼性係数は0.96であり、再テスト法の相関係数は0.79であった。既知グループ技法を用いて2仮説「助産師経験年数が10年以上の助産師は、10年未満の助産師よりも尺度の総得点が高い」「実践に対する自己評価の機会が多い助産師は、その機会が多くない助産師よりも、尺度の総得点が高い」を検証

し、2 仮説ともに支持された。これらは、信頼性と妥当性を確保した「医療安全行動自己評価尺度-助産師用-」が開発できたことを示す。

開発できた助産師用の尺度の教示文は、「下記の行動は、医療事故防止および妊産褥婦や新生児の安全確保に向け、助産師の皆様が講じる必要のある対策です。あなたは、これらの行動を実際にどの程度できていますか。ご自身の日頃の実践を思い浮かべ、該当する番号に をつけてください」である。選択肢は、「できないことが多い」1点から「いつも完璧にできている」5点、質問項目は、「妊産褥婦や新生児に生じやすい危険を予測し観察の頻度や詳細さを決定する」「分娩監視装置等のモニターによる観察に加え、触診や問診も行い正確に観察する」などの29項目からなる。

新人看護師指導者用尺度の開発：(1) の成果である新人看護師指導者が講じている医療事故防止対策41種類を検討し、33質問項目からなる5段階リカート型尺度を作成し、専門家会議、パイロットスタディにより内容的妥当性を確認した。また、全国の新人看護師指導の役割を担う看護師382名のデータを統計学的に分析した結果、尺度のクロンバック 信頼性係数は0.96であり、再テスト法の相関係数は0.84であった。既知グループ技法を用いて2仮説「看護実践能力を高いと自己評価している看護師は、低い看護師よりも尺度の総得点が高い」「指導に関する研修の受講経験がある看護師は、ない看護師よりも、尺度の総得点が高い」を検証し、2仮説ともに支持された。これらは、信頼性と妥当性を確保した「医療安全行動自己評価尺度-新人看護師指導者用-」が開発できたことを示す。

開発できた新人看護師指導者用の尺度の教示文は、「下記の行動は、新人看護師の医療事故防止および患者の安全確保に向け、新人看護師を指導する皆様が講じる必要のある対策です。あなたは、これらの行動を実際にどの程度とれていますか。ご自身の日頃の行動を思い浮かべ、該当する番号に をつけてください」である。選択肢は、「できないことが多い」1点から「いつも完璧にできている」5点、質問項目は、「医療事故防止と発生時の対応に必要な重要事項は繰り返し説明する」「報告・連絡・相談をしない新人看護師に催促し、その徹底を図る」などの33項目からなる。

実習指導者用尺度の開発：(1) の成果である実習指導者が講じている医療事故防止対策29種類を検討し、26質問項目からなる5段階リカート型尺度を作成し、専門家会議、パイロットスタディにより内容的妥当性を確認した。また、全国の実習指導者353名のデータを統計学的に分析した結果、尺度のクロンバック 信頼性係数は0.90であり、再テスト法の相関係数は0.71であった。既知グループ技法を用いて2仮説「看護実践能力を高いと自己評価している実習指導者は、低い実習指導者よりも尺度の総得点が高い」「実習指導者役割に自信のある実習指導者は、ない実習指導者よりも、尺度の総得点が高い」を検証し、2仮説ともに支持された。これらは、信頼性と妥当性を確保した「実習安全のための学生指導自己評価尺度-実習指導者用-」が開発できたことを示す。

開発できた実習指導者用の尺度の教示文は、「下記の行動は、実習中の医療事故防止および患者の安全確保に向け、実習指導者の皆様が講じる必要のある対策です。あなたは、これらの行動を実際にどの程度できていますか。ご自身の日頃の実習指導を思い浮かべ、該当する番号に をつけてください」である。選択肢は、「できないことが多い」1点から「いつも完璧にできている」5点、質問項目は、「事故防止に向けての重要事項を繰り返し学生に説明する」「緊急事態発生を示す状況と対応方法を学生に具体的に説明する」などの26項目からなる。

看護師長用尺度の開発：(1) の成果である看護師長が講じている医療事故防止対策43種類を検討し、医療事故防止対策として看護師長に特有な対策29種類を基盤に医療事故防止行動を問う32質問項目からなる5段階リカート型尺度を作成した。また、専門家会議、パイロットスタディにより内容的妥当性を確認し、質問項目を修正すると共に29質問項目とした。また、全国の看護師長580名のデータを統計学的に分析した結果、尺度のクロンバック 信頼性係数は0.90であり、再テスト法の相関係数は0.85であった。既知グループ技法を用いて2仮説「看護師長経験が長い看護師長は、短い看護師長よりも尺度の総得点が高い」「医療安全に関する学習方法が多様な看護師長は、学習方法が単一な看護師長よりも、尺度の総得点が高い」を検証し、2仮説ともに支持された。これらは、信頼性と妥当性を確保した「患者安全のための医療事故防止行動自己評価尺度-看護師長用-」が開発できたことを示す。

開発できた看護師長用の尺度の教示文は、「項目1から29は、患者の安全確保、および、医療事故防止のために必要な看護師長の行動を表しています。あなたの日々の行動と照らし合わせ、該当する番号に をつけてください。」である。選択肢は、「できないことが多い」1点から「いつも完璧にできている」5点、質問項目は、「事故発生を予感させる行動をとるスタッフに言葉をかけたり警告したりする」「院内外で発生した医療事故情報をもとに留意事項を繰り返しスタッフに伝える」などの29項目からなる。

(3) 医療事故防止能力向上を目的とした教育プログラム立案モデル作成と有効性検証

尺度を用いた全国調査の結果を分析し、異なる役割を果たす看護職者の実践の現状と課題を解明し、尺度を用いた教育プログラム立案の有効性を院内教育担当者へのインタビューにより確認した。現在、研究成果を統合した「看護職包括型患者安全教育推進システム」を成文化中である。

<引用文献>

- 伊藤慎也他(2014): 病院における医療安全管理体制整備の状況と課題, 日本医療マネジメント学会雑誌, 15(1), 2-8.
- 日本医療機能評価機構(2013): 医療事故情報収集等事業平成 25 年年報.
- 三浦弘恵, 舟島なをみ(2010): 患者安全のための看護実践自己評価尺度, 看護教育学研究, 19(2), 12-13.
- 日本看護協会助産師職能委員会監修(2006): 新版 助産師業務要覧, 日本看護協会出版会, 226.
- 佐々木幾美他(2007): 学生のヒヤリ・ハット体験に関する実態調査, 看護教育, 48(10), 885-889.
- 相撲佐希子他(2013): 病棟の安全文化を高めるための師長のマネジメント役割, 中京学院大学看護学部紀要, 3(1), 17-27.
- Martijin, L., et al. (2012): Patient Safety in Midwifery Care for Low-Risk Women- Instrument Development-, Journal of Midwifery & Women's Health, 57(4), 386-395.
- 児玉真利子他(2004): 看護師長のリスクマネジャー役割評価尺度開発, 日本看護管理学会誌, 7(2), 10-18.
- 布施淳子(2012): 看護領域における医療安全教育のコンピテンシーの同定とアセスメントツールの開発, 2009~2011 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究成果報告書.
- 舟島なをみ(2003~2014): 科学研究費(基盤研究B); 看護継続教育支援システムの開発 (H15-18), (H19-22), (H23-26).
- 宮首由美子(2012): 設置主体を同じくする 8 病院が共通実施する院内教育プログラムの開発, 看護教育学研究, 21(2), 26-27.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

- 伊勢根 尚美, 舟島 なをみ, 実習指導者が看護学実習中の学生による医療事故防止に向けて講じている対策, 看護教育学研究, 査読有, Vol.28, No.1, 2019, pp.57-70,
DOI: 10.19015/jasne.28.1_57
- 上國料 美香, 舟島 なをみ, 看護師長が講じている医療事故防止対策, 千葉看護学会会誌, 査読有, Vol.24, No.2, 2019, pp.85-93,
<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/106024/S13448846-24-2-P085.pdf>

[学会発表](計7件)

- 中山 登志子, 舟島 なをみ, 鹿島 嘉佐音, 新人看護師指導者のための医療安全行動自己評価尺度の開発, 日本看護研究学会第 45 回学術集会, 2019
- 山品 晴美, 舟島 なをみ, 中山 登志子, 「実習安全のための学生指導自己評価尺度 実習指導者用」の開発, 日本看護学教育学会第 28 回学術集会, 2018
- 山品 晴美, 舟島 なをみ, 新人看護師による医療事故防止に向けたプリセプターの対策と実践, 第 49 回日本看護学会(看護教育), 2018
- 山品 晴美, 舟島 なをみ, 中山 登志子, 「医療安全行動自己評価尺度 助産師用」の開発, 第 48 回日本看護学会(ヘルスプロモーション), 2017
- 鈴木 美和, 舟島 なをみ, 伊勢根 尚美, 学生の医療事故防止に向けた実習指導者による対策と実践の解明, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016
- 上國料 美香, 舟島 なをみ, 鹿島 嘉佐音, 看護師長が講じている医療事故防止対策に関する研究, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016
- 中山 登志子, 舟島 なをみ, 鹿島 嘉佐音, 助産師が講じている医療事故防止対策の解明, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 2016

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 中山 登志子

ローマ字氏名: (NAKAYAMA, tosiko)

所属研究機関名: 千葉大学

部局名: 大学院看護学研究科

職名: 教授

研究者番号(8桁): 60415560

研究分担者氏名：鹿島 嘉佐音
ローマ字氏名：(KASHIMA , kasane)
所属研究機関名：千葉大学
部局名：大学院看護学研究科
職名：技術職員
研究者番号 (8 桁) : 80828153

研究分担者氏名：山品 晴美
ローマ字氏名：(YAMASHINA , harumi)
所属研究機関名：共立女子大学
部局名：看護学部
職名：助教
研究者番号 (8 桁) : 30799961

研究分担者氏名：手島 恵
ローマ字氏名：(TESHIMA , megumi)
所属研究機関名：千葉大学
部局名：大学院看護学研究科
職名：教授
研究者番号 (8 桁) : 50197779

研究分担者氏名：上國料 美香
ローマ字氏名：(KAMIKOKURYO , mika)
所属研究機関名：国立研究開発法人国立国際医療研究センター
部局名：国立看護大学校
職名：講師
研究者番号 (8 桁) : 10632200

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。